

MACF礼拝説教要旨

2020.08.16

「最初の人アダムの影響と最後のアダムによる救いの祝福」

ローマの信徒への手紙

5:14 しかし、アダムからモーセまでの間にも、アダムの違犯と同じような罪を犯さなかった人の上にさえ、死は支配しました。

実にアダムは、来るべき方を前もって表す者だったのです。

5:15 しかし、恵みの賜物は罪とは比較になりません。一人の罪によって多くの人が死ぬことになったとすれば、

なおさら、神の恵みと一人の人イエス・キリストの恵みの賜物とは、多くの人に豊かに注がれるのです。

5:16 この賜物は、罪を犯した一人によってもたらされたようなものではありません。裁きの場合、

一つの罪でも有罪の判決が下されますが、恵みが働くときには、いかに多くの罪があっても、無罪の判決が下されるからです。

5:17 一人の罪によって、その一人を通して死が支配するようになったとすれば、なおさら、神の恵みと義の賜物とを豊かに受けている人は、一人のイエス・キリストを通して生き、支配するようになるのです。

5:18 そこで、一人の罪によってすべての人に有罪の判決が下されたように、一人の正しい行為によって、

すべての人が義とされて命を得ることになったのです。

5:19 一人の人の不従順によって多くの人が罪人とされたように、

一人の従順によって多くの人が正しい者とされるのです。

5:20 律法が入り込んで来たのは、罪が増し加

わるためでありました。

しかし、罪が増したところには、恵みはなおいっそう満ちあふれました。

5:21 こうして、罪が死によって支配していたように、恵みも義によって支配しつつ、わたしたちの主イエス・キリストを通して永遠の命に導くのです。

+++++

1) アダムによってもたらされた罪と死 その影響の大きさ

アダムという名前はいわゆる固有名詞というより「人間総代」としての名前です。

その罪は後々に至るまで人間全てに影響をもたらし、罪と死から抜け出せない世界を生み出してしまいました。

2) イエス・キリストによってもたらされた恵みと赦しといのち

「5:14 しかし、アダムからモーセまでの間にも、アダムの違犯と同じような罪を犯さなかった人の上にさえ、死は支配しました。

実にアダムは、来るべき方を前もって表す者だったのです」

とありますが、「来るべき方」というのはイエス様のことです。古いアダムひとりによって作り出された「罪と死」の世界から

「恵みと赦しの世界」をもたらすべく「最後のアダム」と呼ばれるイエス・キリストが来られたのです。

パウロはコリントの信徒への手紙第一15章の中に

15:22 つまり、アダムによってすべての人が死ぬことになったように、キリストによってすべての人が生かされることになるのです。

15:45 「最初の人アダムは命のある生き物となった」と書いてありますが、最後のアダムは

命を与える霊となったのです。
と記録しています。

最初のアダムは罪と死をもたらすことになりましたが、神様の計画により、新しい「最後のアダム」と呼ばれるイエス様は「いのち」をもたらす存在としてきてくださいました。

つまり、神様は最初の人アダムの呪いを取り除き、希望に生きられるようにとイエス様を遣わしてくださったのです。

古いアダムの影響がすべての人に及んだように、最後のアダム、イエス様の影響はさらに大きく、さらに広く救いと恵みをもたらすことになったのです。

3) 罪が死によって支配していたように、恵は義によって支配

罪とは「神の座に人間が座り込み、神に変わって善悪の判断を仕切り、神の心と的外れに生きること」と考えることができます。

ローマの信徒への手紙6章に「6:23 罪が支払う報酬は死です。しかし、神の賜物は、わたしたちの主キリスト・イエスによる永遠の命なのです。」

という言葉があります。

罪の特徴のひとつは「神に代わって自己判断で善悪で仕切る傾向性」「利己的な価値判断をくだすこと」にあります。いわゆる「裁くこと」が大好きなのです。

善悪の知識の木の実を食べた人間は「あらゆることを利己的な価値判断、または利己的な善悪の価値基準で」判断する傾向があります。それはストレスを生み出し、不安を作り出し絶望をもたらすのです。

抜け出せない蟻地獄のような否定的世界のなかに引き込まれてしまうのです。そして死へと追いやってしまうのです。

少し説明をしたいと思います。

実は、私は時々、黙想会などに参加することがあるのですが、その際、そこでは「ありのまま、今ここ」に集中し、さらに「物事の価値判断をしない」ということを意識し自分と向き合います。

ここにある「物事の価値判断をしない」という事柄が実はとても重要なポイントになっています。もちろん、最終的には価値判断は必要です。それは神の義による価値判断こそがなされるべきです。

でも、現状の私たち、罪ある私たちは常に自分を神の座につかせ、極めて利己的な価値判断で善悪などを決めつけている傾向があるのです。そして、罪とはまさに、その「利己的に裁きを継続的に実行すること」であり「神の判断とずれたまま価値判断を継続している状況から生まれる深刻なストレスや行き詰まりを刈り取りながら生きている」という現実です。

つまり、「罪が私たちを支配している」というのは「私たちの日常において、常に利己的な価値判断を行い続けている」という状況のことがきっかけになっているのです。穏やかに神の判断を待てないし、直感的に善悪の判断をしまい、特に否定的なネガティブモードの判断が続くと、生きることさえ嫌になってしまうことがあるのです。

「ものごとありのまま」を私たちは受け取るのが苦手です。罪の性質がそれを許さないのです。なんでも善悪で決めようとしてしまうのです。人間すべてが、そういう傾向を古いアダムから引き継いでいます。

例えば、私が椅子に足をぶつけて「痛い」と感じたとします。その際、「感じたこと・感覚」には快不快はありますが善悪はありません。

善悪という判定は人間の後付けによるもので
す。

ですから、その出来事を「悪」とした場合、
「こんなところに椅子を置いたのは誰だ」とか
「こんな椅子にぶつかるなんて自分も衰えた
な」とかいわゆる「犯人探し」とか「自己憐憫
にも似た感情」がどんどん出てきて「何をやっ
てもダメな自分だな」などというところまで追
い込んでしまうことがあります。もともとは、
足が椅子にぶつかっただけなのですが、結果と
して善悪の価値判断が入り込み、どんどん自分
を追い込んでいってしまうわけです。
こうなると、なかなかその否定的な、自己肯定
感の低い発想から抜け出せなくなります。
これはある意味で「罪の死による支配」です。

最近、私は、礼拝が会場で開催できないこと
で、なんとなく暗澹とした思いを抱いていまし
た。

何かできることはないか、これはどうか、あれ
はどうか、あれこれ考えますが、なかなか良い
アイデアが出てきません。そうすると、具体的
な集会ができないことについての善悪の価値判
断が頭をもたげてきて、できないことを悪と理
解し始めると「まったく役に立たない牧師だ
な」とか、「なんとかできないのか、信頼を
失うぞ」とか、否定的な声が心に響いてくるわ
けです。

状況的には世界中のコロナ禍のなか自由に礼拝
できないことについて、多くの方々は理解して
くださっていますが、中には「なんとかできな
いのか」「信仰があるなら礼拝を召集すべきだ
ろう」とか考えている方もおられますので、
色々な声が私の耳に届くのです。そうすると、
私としては「いろいろな方々がいろんな考え方
を持っておられるなあ」で止めておけば良いの
に、善悪の判断が入り込んで「自分は不信仰な
のかな」とか「誰に何を言われても礼拝を召集

すべきなのかな」「臆病なのかな」「ま、実行
力のない自分だなあ」と否定的悲観的な発想
が育ってきやすくなることを体験しました。
それはすべての人のなかにある「罪の性格」
「善悪ですべてを裁こうとする傾向」まさに
「罪の死による支配」です。

そこから抜け出せないと、ちょっとした失敗や
感情ひとつに左右されて、自分はダメだとか、
あの人は最低だとかいろいろな評価が飛び出し
てきて「裁きの世界」が展開され、絶望感のな
かに追いやるのです。私たちはそういう出来事
を繰り返しながら生きています。「今・ここ・
価値判断なし」という姿勢は、人間は案外、不
得意なのです。それができるということ自体、
赦され生かされているという安心感がないと前
に進めませんし、これは恵みの出来事なので、
いわゆる方法論があるわけではないのです。

でも、神様は「そういうダメな部分を持っている
自分のすべてを受け止め、愛し、赦して」く
ださいます。そして私たちには感情のアップダ
ウンはあるし、判断の間違いもあるのですが、
神は、そういう私たちをありのまま愛で包み
込んでくださいます。

そこにあるのは「恵み」の祝福。「にもかかわ
らず生きる」を喜ぶ姿勢です。

様々な部分をイエス様と共に受け止めることが
できるようになってくるのです。

自分の「裁きによる否定的悲観的な方向から、
赦されて生かされている」という方向に気づか
せてくださるのです。神様は、あなたの失敗も
罪も価値判断のくせも承知の上で、「いてくれ
てありがとう」と言いながら、愛で包み、キリ
ストに似た者として育ててくださいます。

私たちの変化は、私たちの努力ではなく、むし
ろ神様の恵みのみわざ、まさに奇跡なのです。
パウロが描いてくれた希望の手紙をもう一度し
っかり読んでみましょう。

5：20しかし、罪が増したところには、恵みは

なおいっそう満ちあふれました。

5:21 こうして、罪が死によって支配していたように、恵みも義によって支配しつつ、わたしたちの主イエス・キリストを通して永遠の命に導くのです。